◆大串　章選

島の子は海原に凧揚げにけり　（津市）中山　道治
駅ピアノ第九で締める師走かな　（八幡市）小笠原　信
惜しむより忘れたき年暮れてゆく　（高知市）和田　和子
☆年の夜や果てなき旅の途中下車　（豊前市）三原　逸郎
凧揚げや風つかめる子つかめぬ子　（郡山市）寺田　秀雄
読みさしは明日へと続く去年今年　（伊丹市）保理江順子
世に疎くなりゆく齢冬ざるる　（山梨県市川三郷町）笠井　彰
初鏡いつかわたしもいなくなる　（東松山市）鈴木　圭
日記にも書けぬことあり日記果つ　（松山市）正岡　唯真
去年今年今も沖には戦あり　（石川県能登町）瀧上　裕幸

【評】第１句。大らかな光景。「海原に」がいかにも「島の子」らしい。第２句。駅ピアノの常連さん。師走が来ると年末の定番ベートーベンの「交響曲第九番」でしめくくる。第３句。昨年は嫌なことが多かった。なにもかも忘れたい。

◆高山れおな選

生きてゐることを忘れて初笑ひ　（新座市）丸山　巌子
外国の映画の中の聖夜かな　（川崎市）折戸　洋
雪女には逢えぬまま定年す　（横浜市）飯島　幹也
全地球揺らぐ予感や賀状書く　（船橋市）斉木　直哉
おほかたの句は星屑に年忘れ　（相馬市）根岸　浩一
目覚しを雪掻用にセットする　（玉野市）加門　美昭
ゆずどものつかずはなれずうかびけり　（鎌倉市）佐々木　眞
トルソーとポインセチアの並ぶ窓　（加古川市）森木　史子
福島の忘れ去らるる年惜しむ　（福島県伊達市）佐藤　茂
初鏡三歩下がれば若返り　（宮崎市）山野　楓子

【評】丸山さん。凄みのある老いの風景。故谷川俊太郎氏の晩年の詩には、こうした境地に通じる作が結構あった。折戸さん。愉快な聖夜、悲しい聖夜、映画の中のさまざまな聖夜。飯島さん。「定年す」は熟さない表現だが、気分はよく判る。

◆小林貴子選

初暦表紙をめくりやる気わき　（福岡市）満重　勇二
数へ日や引き算ばかり増えてをり　（大和市）岩下　正文
冬ざるる傷つきやすき民主主義　（石川県能登町）瀧上　裕幸
ベルばらの使えぬ切手除夜の鐘　（狛江市）西原　純子
天狼や中村哲の蒔いた夢　（東京都渋谷区）村松　有一
一大事と一慶事あり日記果つ　（東大阪市）渡辺美智子
年鑑の俳人錚々年の暮　（広島市）谷口　一好
電波より音波が似合う除夜の鐘　（吹田市）小山　安松
酉の市入れて句会のプラン組む　（八王子市）徳永　松雄
がんばりの利く包丁や年の暮　（越谷市）新井高四郎

【評】一句目、やる気が湧いてきたところが良い。私も見習いたい。二句目、あと四日、あと三日と、減るばかりの年末。三句目、傷つきやすいから大切に守りたい。四句目、大好きな漫画が切手になるのは嬉しいが、出せずに手元に置く事に。

◆長谷川櫂選

正月は俳句に残るばかりかな　（市川市）をがはまなぶ
猫の句の入選果す漱石忌　（福岡市）釋　蜩硯
☆年の夜や果てなき旅の途中下車　（豊前市）三原　逸郎
俊太郎逝きし後から冬が来る　（筑紫野市）二宮　正博
柚子ふたつ我に近づく柚子湯かな　（鎌倉市）佐々木　眞
分かりやすいうそをつく友冬ぬくし　（成田市）かとうゆみ
一月の天をあやしむ能登の国　（大崎市）宮嶋　孝
紅白の始まる前に柚子湯かな　（袋井市）勝田　敏勝
落選の俳句を供養年忘　（今治市）横田青天子
遺言がおまけの五年日記買ふ　（大阪市）上西左大信

【評】一席。日本の正月はいいもの。こんなことにならないように。二席。ほのぼのとおかしな句。猫を愛した漱石の忌日十二月九日。三席。誰もが百代の過客、永遠の旅人。年に一度の途中下車。十句目。遺言欄付き？　何たるおせっかい。